周波数検討ワーキング
ご質問事項への回答資料

2010年7月5日

日本無線株式会社

追加のご質問

- 公共向け無線のブロードバンド化について、「UHF帯以上の帯域おいてコンシューマ用途と併存させる利用の検討が必要」と言われているが、具体的には、どのようなインフラをどのように利用する形態を想定しているのか。

回答の前提

公共BWAをコンシューマ用途と連携させる必要もあると考える理由は、下記の様な考え方に基づきます。

1. 方式、部品の共通化が出来るので、大きなコンシューマママーケットの技術の進歩をマーケットの小さい公共BWAでも享受でき、開発コストや製造コストが下げられる。

2. インフラの共用化ができれば、インフラ構築コストの低減などシナジー効果が期待でき、両者にとってメリットがある。

3. さらに、運用上の連携をはかれば、公共BWAの事業性、運用主体の脆弱性の問題を解決でき、コンシューマ事業にとっては、公共サービスという安定的な事業運営が期待できる。

4. 結果として、公共BWAが効率良く運用されることになり周波数の有効利用が図れる。

5. 限られた電波資源を使って、コンシューマ・ユーザへのサービス提供と同時に公共BWAサービスの全国民への展開が期待される。

期待する併存コンシューマ用途

周波数の拡大が期待されている2.5GHz帯BWAの周辺帯域に新たな公共BWA周波数を割り当て、コンシューマ用途の2.5GHz帯BWAシステムと併存させる。

併存の理由：

① コンシューマ・ユーザは、2.5GHz帯公共BWAの帯域を平常時利用も可能となる。

② 新しく2.5GHz帯に割り当てる公共BWAをコンシューマ用途と共通仕様にすることにより、双方のシステム間にガードバンドが不要となり、さらに、必要なら相互のインフラ共用を可能に出来る。

期待する利用形態

公共BWAの利用形態として、地域の特性を充分に考慮し、VHF帯/UHF帯等の周波数最適化を駆使したシステム技術が期待される。

コンシューマ用途との利用補完

VHF帯公共BWA、地域WiMAXと2.5GHz帯コンシューマ・ユース、及び、2.5GHz帯新規BWAで、帯域の補完、もしくは連携により周波数の有効利用を期待する。